

送 辞

今日の良き日に、晴れの門出を迎える卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。皆さんの新たな旅立ちを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、どんな気持ちで今日という日を迎えられたでしょうか。これまで育ててくれたご両親や、お世話になった先生方への感謝、また、共に学んだクラスメートとの、惜別の思いでいっぱいになっていることでしょう。私たち在校生もまた、みなさんへの感謝の気持ちと、お別れしなければならない寂しさが尽きません。

二年前、不安と緊張の中で入学した私たちに、やさしく手を差しのべ、時に優しく、時に厳しく接してくださいました。高校生活の様々な場面で見せてくださった、たくましい姿が、今でもはっきりと思い出されます。二高祭では、限られた時間の中で、先頭に立って企画や準備を進め、着実に実行していく姿が強く目に焼き付いています。体育祭や球技大会では、後

輩の私たちにまで、声を枯らして声援を送ってくださったことに、深く感動しました。

また、学習行事に積極的に取り組む姿も、私たちの胸に強く残っています。昼休みや放課後、休みの日にまで、講習や受験勉強に励む姿を見る度に、目標に向かって努力することの大切さ、進路を実現することの厳しさを教えられました。

私は野球部員としても、多くの先輩に支えられ、成長させていただきました。入部当初は、先輩方の野球に向ける情熱と、一つのボールを必死に追いかける気迫に、ただただ圧倒されたのを覚えています。その時の私は、自分で考えて行動することが出来ず、勉強も部活も中途半端で、チームの足を引っばってばかりでした。しかし、野球だけでなく、学校生活全般に真剣に取り組むことが大切なのだと、先輩方が身をもって示してくださったことで、少しずつ変わることが出来ました。苦手だった勉強にも以前より前向きに取り組めるようになり、自分に自信を持つことが出来るよう

になりました。今の私があるのは、まぎれもなく野球部の先輩方と出会えたおかげです。この学校に入学して、皆さんに出会えて、本当に良かったと思います。

こうした思いは、決して私一人のものではないと思います。在校生の一人一人が「先輩のようになりたい」「先輩のおかげで今の自分がある」 そう思わせてくれる先輩がいるはずです。みなさんと交わした何気ない言葉や、一緒に過ごした日々は、私たちにとってかけがえのない財産なのです。

みなさんがいなくなってしまう寂しさ。そして、この工大二高を上手く引き継いでいけるのかという不安はあります。しかし、私たちの目標であり、道しるべになってくださった皆さんへの、感謝の気持ちを胸に、これからの二高を一層盛り上げていくことを約束します。先輩方から教わった二高への誇りを忘れず、私たちも自分の夢の実現に向けて、一層努力し続けていきます。

これから大学生として、また社会人として、新たな世界に旅立つことに、不安もあると思います。しか

し、どうか挑戦することを恐れず、前を向いて踏み出してください。そこには新たな発見が、出会いがきっとあるはずです。どんな困難があっても、この工大二高での三年間で学んだこと、友との友情、先生方との深い絆を礎にすれば、必ず夢が実現すると確信しています。どうか自分の信じた道を進んでください。ご活躍を心からお祈りします。

まだまだ感謝の言葉は尽きませんが、お別れの時が来てしまいました。皆さんの未来が、明るく輝かしいものであるよう、在校生一同心よりお祈り申し上げ、お別れの言葉と致します。

平成二十七年三月二日

在校生代表 吉田 一成